

学校改善につながる学校評価Q & A

(平成16年度版)

平成17年3月

茨城県教育研修センター

「学校改善につながる学校評価Q & A」について

自主的・自律的な学校経営を推進していくためには、学校改善が必要となります。学校改善とは、各学校の教育目標の実現を目指し、教育活動を日常的、継続的によりよいものにしていく営みであると言えます。

学校改善を行っていくためには、学校評価が欠かせません。現在、県内の多くの学校で学校評価を実施していますが、本研修センターが平成17年3月に発行した「研究報告書『学校評価に関する研究』」(CD-ROM版)に示したように、学校によっては、改善に向かいつつも、いくつかの課題に直面している状況が見られます。

この研究では、学校評価が学校改善につながるためには、「授業評価」を起点として、学校評価の中核である「単元等の評価(以後単元評価と呼ぶ)」,そして学校評価の主たる領域である「教育課程評価」,「学校経営の評価」へと、日常的な評価を総括的な評価につなげていくことが必要であるととらえました。それは、全教職員が授業評価を起点とした学校評価を行うことによって、主体的に学校評価に取り組めるようになり、各学校の教育目標の実現に向けて、日常的に授業をはじめ教育活動の改善が図られ、学校改善へつながっていくものと考えからです。

加えて、学校評価が一層学校改善につながるようにするには、「学校評価の目的と主体の共通理解」をはじめとし、「具体的に評価可能な学校経営計画の策定」,「組織的、計画的な取組」,「教職員以外による学校評価」,「自校に適した学校評価システムづくり」,「学校評価そのものの評価・改善」などの視点から考えていくことも大切になってきます。

この「学校改善につながる学校評価Q & A」では、最初に、本研究が提案する「授業評価を起点として取り組む学校評価」の考え方とその全体構想にかかわるイメージ図を掲載しましたので、皆さん一人一人が学校改善につながる学校評価の全体像をとらえていただきたいと思えます。さらに、この学校評価の在り方を確かなものにしていただくため、皆さんが疑問に思うようなことについて、「学校評価についての共通理解」,「学校経営計画の策定」,「授業評価」,「単元評価」,「教育課程評価」,「学校経営の評価」という観点からいくつかの質問を想定し、それぞれについて回答を示させていただきました。

各学校におきましては、研究報告書と併せてご活用いただき、「授業評価を起点として取り組む学校評価」を積極的に推進されますことをご期待いたします。

平成17年3月

茨城県教育研修センター次長兼教職教育課長

中原 一博

授業評価を起点とした学校評価の考え方

学校経営の中心は

自主的・自律的な学校経営を推進していくための中心となる経営は、教育課程経営です。この教育課程経営において、編成された教育課程を実施する場面が、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等における単元等（題材、主題、活動等を含めた一つのまとまった取組、以下単元と略す）であり、単元を実施する場面が授業であります。このようにとらえると、学校改善を図っていくためには、授業評価、単元評価、教育課程評価、学校経営の評価が必要となり、授業評価を起点としてこれらの評価に取り組んでいくことが大切になってきます。

評価を大切にしながら学校改善を図っていくための取組をイメージ化した図を2頁に示しました。

授業評価を起点とした学校評価とは

授業評価を起点とした学校評価とは、まず授業評価を行い、その結果を単元評価に生かし、そして、単元評価結果を教育課程評価に、教育課程評価結果を学校経営の評価に生かしていくという、授業評価から始める一連の評価ととらえます。

授業評価を起点とするとは

授業は、日々多くの教職員が行っている教育活動の主たるものであり、授業評価を行うことによって、指導法が改善され、それに伴い指導力も向上し、そして日々の授業が改善されるという効果もあります。授業評価をきっかけに授業改善を行うという意味での起点というたとえと言えます。

授業改善だけで、より質の高い教育活動が実現されるわけではありません。児童生徒の取組を見取りながら、単元の計画や教育課程の編成等を改善していくことが必要になってきます。

本研究では、「授業評価を起点にする」という中に、授業評価結果を単元評価に生かすという意味が含まれており、このことを重要視しています。

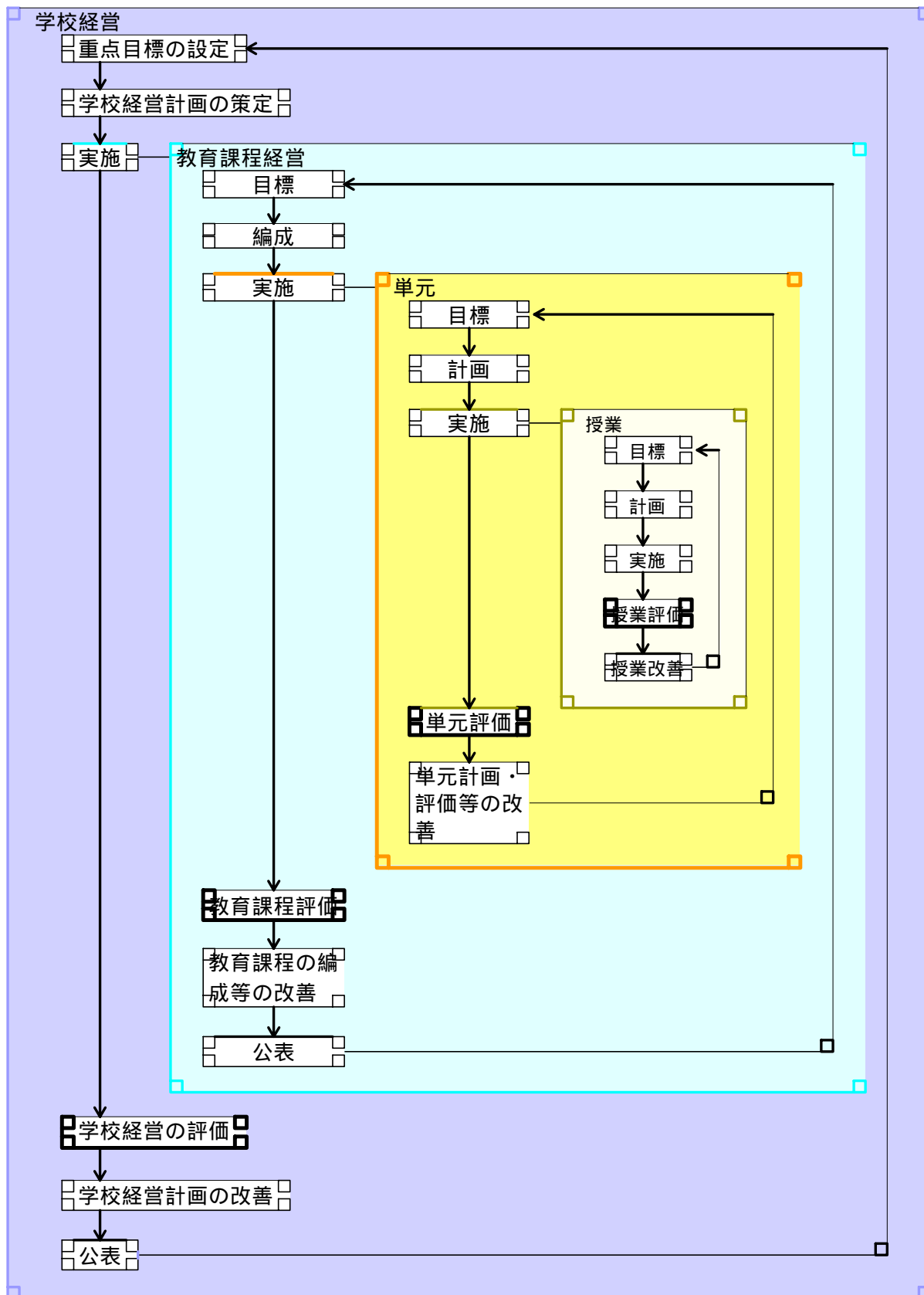
評価結果を次の評価に生かすとは

授業評価結果を単元評価に生かすとは、授業評価結果を単元評価の資料として活用することととらえます。このつながりを大切にすることにより、より客観的に単元評価が行え、より確かな成果が得られ、改善策も明確になります。同様なことが、教育課程評価、学校経営の評価にも言えます。

また、教職員相互に、それぞれの評価が次の評価につなげていくための評価でもあるということが理解されることにより、各評価への取組もいっそう意欲的になるものと期待されます。

3頁には、授業評価、単元評価、教育課程評価、学校経営の評価のそれぞれの目的、実施時期、評価者、内容、方法について、一覧にまとめ示しました。

授業評価を起点とした学校評価のイメージ図



授業評価を起点とした学校評価の目的・方法等の一覧

学 校 改 善	学校経営の目的	学校経営の重点目標の実現状況の把握，学校経営計画の改善	時期	学期末，12月～2月
	学校経営の評価者	教職員，児童生徒，保護者，地域住民，卒業生，卒業生保護者，学校評議員，学校評価委員	内容	学校経営の重点目標，具体的施策等
	学校経営の方法	<p>教職員による評価では，教職員以外による評価の結果，教育課程評価の結果，前年度の学校経営の評価結果を資料として活用する。</p> <p>教職員以外による評価では，評価者に評価に必要な資料を提供し，それをもとに，学校経営の重点目標や重点施策について，評価可能な項目について評価してもらう。その際，評価者に応じた評価シートを活用する。</p>		
	↑			
校	教育課程の目的	教育課程の目標や各教科等の目標の実現状況の把握，教育課程の改善，学校経営の評価の資料	時期	学期末，12月～2月
	教育課程の評価者	教職員	内容	教科，道徳，特別活動，総合的な学習の時間等の目標の実現状況，年間指導・評価計画の実施状況，教育課程経営の条件整備の達成状況等
	教育課程の方法	<p>教科会，学年会，各種部会ごとに，単元評価結果，学力テスト（校内テスト，学力調査等）の結果，学期や年間の観点別学習状況の評価結果，意識・実態調査結果等をもとに，教科，道徳，特別活動，総合的な学習の時間等の目標の実現状況や年間指導・評価計画の実施状況等々を評価し，改善点を朱書する。</p> <p>各種部会等から出された評価結果を資料として活用して，全教職員で教育課程経営の条件整備の達成状況等について評価し，改善点を明確にする。</p> <p>これらの評価結果をもとに，教務主任を中心とした教育課程改善チーム等が中心となり，教育課程の編成等に関する改善を行う。</p>		
善	単元評価の目的	単元目標の実現状況の把握，単元指導・評価計画等の改善，教育課程評価の資料	時期	単元終了後
	単元評価の評価者	授業者，同じ単元を実施した同僚教師	内容	単元目標の実現状況，単元の指導・評価計画の展開（実施）状況，単元の指導内容，配当時間，指導形態，指導法，学習環境，評価規準等
	単元評価の方法	<p>小学校と特殊教育諸学校では，学年会を中心に単元評価を行う。中学校と高等学校では，教科については教科会で，道徳，特別活動等については学年会で単元評価を行う。</p> <p>単元評価シートを活用する。</p> <p>授業評価結果を単元評価の資料として活用する。</p> <p>部会等での話し合いを重視する。</p> <p>評価結果から改善点を見だし，単元指導・評価計画の改善点については，それを朱書する。</p>		
授 業 評 価	授業評価の目的	授業改善（指導力の向上），単元評価の資料	時期	単元途中の1単位時間の終了時，単元の終了時，学期末，学年末
	授業評価の評価者	授業者，児童生徒，参観者	内容	授業への興味・関心，授業内容の理解度，指導内容，指導法，授業進度，授業への要望等
	授業評価の方法	<p>評価者に応じた評価シートを活用する。</p> <p>児童生徒，参観者の授業評価結果と授業者の自己評価結果を資料として活用し，授業改善に生かす。</p> <p>また，単元評価の資料として活用する。</p>		

質問（Q）一覧

学校評価についての共通理解

Q 1	年度始めに ,学校評価の目的・主体等について ,全教職員で共通理解を図るには ,どのようにしたらよいでしょうか。
-----	--

学校経営計画の策定

Q 2	学校経営計画の策定について ,どのような点に留意すればよいでしょうか。
-----	-------------------------------------

授業評価

Q 3	授業評価とは ,どのような評価なのでしょうか。
Q 4	児童生徒による授業評価は ,どのような手順で ,どのようなことに留意して行っていけばよいでしょうか。
Q 5	授業評価の評価シートは ,どのようなものが考えられますか。

単元評価

Q 6	単元評価とは ,どのような評価なのでしょうか。
Q 7	単元評価を行う場合の手順と留意点を示してください。
Q 8	単元評価を実施する上で ,配慮することはどんなことでしょうか。
Q 9	単元評価の評価シートは ,どのようなものが考えられますか。

教育課程評価

Q 10	教育課程評価とは ,どのような評価なのでしょうか。
Q 11	どのような手順で ,どのようなことに留意して教育課程評価を行っていけばよいでしょうか。
Q 12	単元評価結果をどのように教育課程評価に生かせばよいでしょうか。
Q 13	教育課程評価を推進する部会をどのように組織し ,運営していけばよいでしょうか。
Q 14	教育課程評価結果をもとに改善策まで明確にすることが難しいという課題を ,どのように解決していったらよいでしょうか。
Q 15	全教職員が意欲的に教育課程評価に取り組めるようにするには ,どのような手立てが必要でしょうか。
Q 16	教育課程評価の結果を次年度の教育課程の編成に生かすには ,どのような点に留意すればよいでしょうか。

学校経営の評価

Q 17	学校経営の評価とは ,どのような評価なのでしょうか。
Q 18	なぜ 教育課程評価の結果を学校経営の評価に生かすことが大切なのでしょうか。
Q 19	学校経営の評価の留意点を示してください。
Q 20	学校経営の評価の結果をどのように活用したらよいでしょうか。
Q 21	学校経営の評価を実施してよかったと ,教職員が感じられる評価にしていきたいと考えています。そのためのポイントを示してください。

学校評価についての共通理解

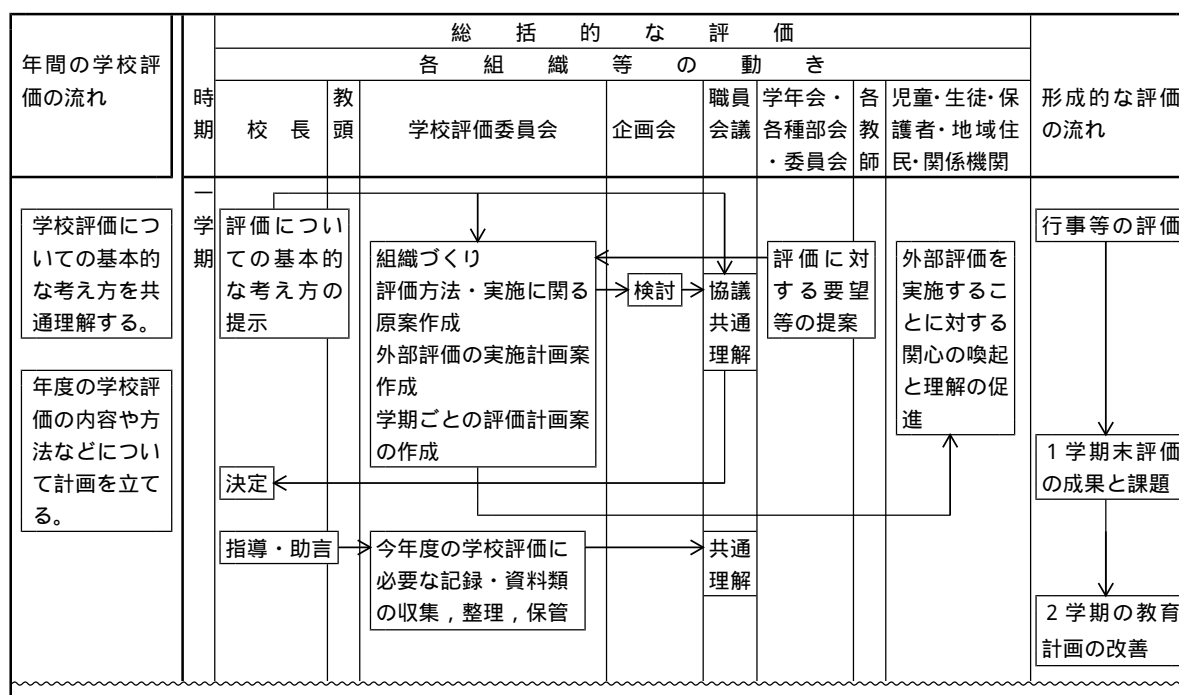
Q 1 年度始めに，学校評価の目的・主体等について，全教職員で共通理解を図るには，どのようにしたらよいでしょうか。

A 一般に，共通理解を図るために欠かせないのは話し合うための場（時間）の確保と話し合いの充実であると言えます。特に年度始めに学校経営の方針や学校教育目標，学校評価等について共通理解を図る場合は，次のようなことに留意して実施していくことが求められます。

まず，職員会議において，校長による学校経営計画の説明に，評価の目的，主体，方法及び学校としての年間を見通した評価計画等についても加えます。学校評価の目的は，学校の教育目標の実現のために，評価結果を自校の学校改善に生かすことです。当然，学校評価の主体は教職員となります。教職員以外，例えば児童生徒や保護者，地域住民等からの評価も重要ですが，これらの評価は，教職員では見えにくい部分の資料を得たり，教職員の評価結果と比較して，その違いから問題点を探ったりするために活用するという共通認識をもちたいものです。

授業評価，単元評価，教育課程評価などの用語についても，年度当初はそのとらえが個々の教職員によってまちまちであることも少なくないので，そのような基本的なことからについても，確認しておくといよいでしょう。

年間の学校評価の実施計画についても，年度当初にある程度方向性が示されていると，教職員の理解が深まるものと思われます。年間の評価の実施時期等については表などにまとめ計画的に進められるようにしたいものです。下に，年間の学校評価の実施計画例（一部）を示します。



学校経営計画の策定

Q2 学校経営計画の策定について、どのような点に留意すればよいでしょうか。

A 学校評価を実施する場合、その方法のみ先に論じられる傾向にありますが、評価を行うには評価可能な目標が必要であり、目標実現のための方策も明確にされていなければなりません。各学校においては、学校経営計画を校長がリーダーシップを発揮しながら創意をもって策定することになりますが、その計画に盛り込まれる内容と留意点は、おおむね下表に示したようなものが考えられます。

また、策定された学校経営計画は、全教職員、児童生徒、保護者、地域住民、教育委員会等の学校関係者間で共有される必要があります。学校経営計画をしっかりと立てることと、それを関係者全員が共通理解することが、学校評価を機能させる大きな要因になります。

項目	内容と留意点
・学校の教育目標 (目指す学校)	・校長が、経営理念に基づき、特にどのような教育を展開するかということについて、アピールすべきことを簡潔に表現する。
・中期経営目標と 実現への具体策	・「目指す学校」を実現するために、向こう3～5年間にどのような計画を立て教育活動を展開するかを示す。教職員にとっては年度ごとの目標が明確になり、教育活動への意欲の向上が図られるようなものでありたい。
・現状分析	・年度を通して実施してきた授業評価、単元評価、教育課程評価等の結果や、教育活動全般にわたる自己評価で特に高い結果や低い結果が顕著に表れた項目については、十分分析するとともに、新入生の実態や保護者の願いなどを把握することも、重点目標を設定する上で重要である。
・今年度の重点目標と 実現への具体策	・現状分析結果を踏まえて設定される重点目標と方策は、1年間の教育活動の指針となるものであるから、評価可能な、具体性のあるものとする。教育活動を「教科指導」「進路指導」「生徒指導」などの領域に分けて設定することも有効である。 ・可能な範囲で目標を数値化することも大切だが、設定する項目には注意を払いたい。どんな内容について数値目標が設定できるか、またその数値は妥当であるかなど十分吟味し、それを経営計画に分かりやすく示す必要がある。
・組織を生かした 実践と評価の年 間の計画	・目標を実現させるためにも、その実現状況を評価するためにも、校務分掌やプロジェクトチームなど、組織を生かすことが重要である。また、そのことにより教職員の指導力や評価力が向上するとともに、協働態勢が一層強化される。

授業評価

Q3 授業評価とは、どのような評価なのでしょうか。

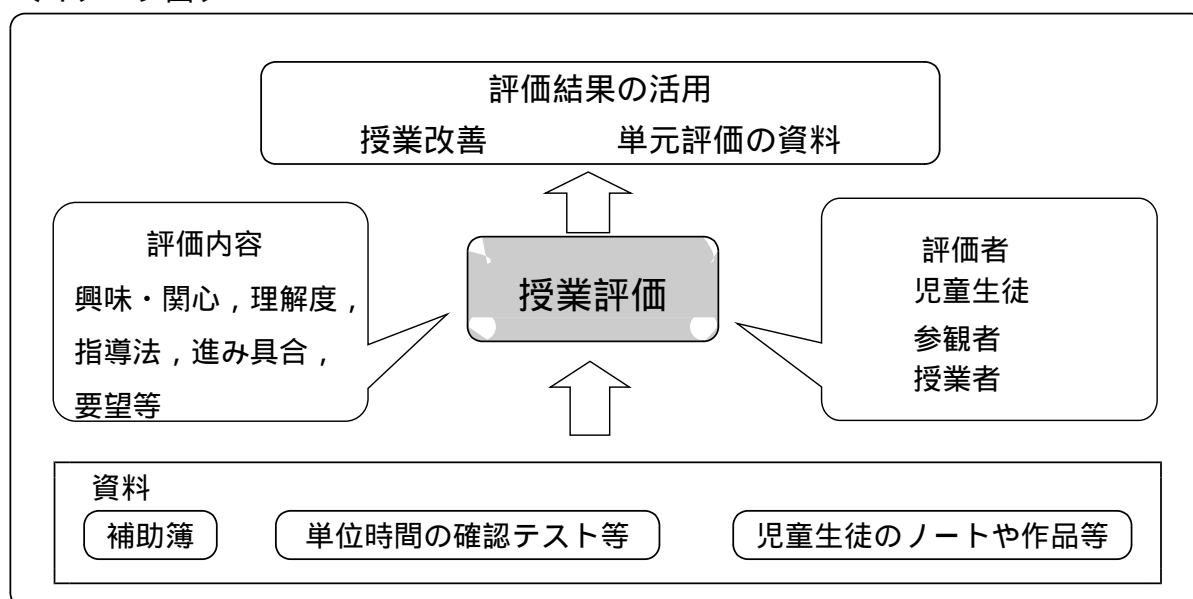
A 授業評価とは、児童生徒の授業の理解度を調査したり、指導内容や指導形態、指導法等の適切性を調査したりすることです。授業評価には、1時間の授業を評価するもの、1単元等の授業全体を評価するもの、広く日頃の授業全般を学期毎等に評価するものがあります。そして、評価者に応じた評価シート等を活用します。

また、授業評価の結果は、「分かる授業」の実現に向け、指導法の改善のために活用するだけでなく、単元の目標や指導内容、配当時間、学習環境等を評価する単元評価の資料として活用します。

下表に、評価者、評価内容の例、評価方法等について示します。

評価者	評価内容の例	評価方法等
児童生徒	授業への興味・関心 授業内容の理解度 授業の進み具合 授業への要望等	・毎時間に評価を行うのではなく、計画的・継続的に行う。特に、単元末の授業評価を確実に行う。
参観者 (保護者等、 同僚教師)	学習への取り組み状況 学習の内容 感想等	・自由記述できる箇所を設け、率直な感想等を拾い上げられるようにする。
授業者	授業のねらいの実現状況 指導の内容 指導形態 指導法等	・児童生徒や参観者の評価結果をもとに、目標の実現状況や指導内容等を評価し、授業の成果や改善点を分類・整理して記録し、単元評価の資料とする。

〔イメージ図〕



Q 4 児童生徒による授業評価は、どのような手順で、どのようなことに留意して行っていけばよいでしょうか。

A 児童生徒による授業評価を実施するための手順と留意点については、次のようなことがあげられます。

手 順	留 意 点
学年会や教科会等を中心に，授業評価の計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会や教科会等を中心に，教職員が話し合いながら評価場面と評価者を具体的に指導計画に位置付ける。 ・学年や教科等で共通した評価シートを活用したり，分類・整理を同じ方法で行ったりする。
授業評価の共通理解	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価のねらいや評価結果の活用方法等について，児童生徒が十分に理解する場を設定することが大切である。理解が十分になされれば，児童生徒はより意欲的に，かつ真剣に授業評価を行う。
評価シートの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の集計にかかる時間も考慮して，評価項目数や記載内容等を決める。 ・氏名を記入させるメリット，デメリットを検討・確認した上で，氏名を記入させるかどうかを決める。
授業評価の結果の集計・分析	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価実施後，できるだけ早く集計し，結果等から即指導に生かせるものは生かしていく。 ・授業評価の結果を蓄積したり，分類・整理したりして分析することにより，児童生徒のよさやつまずきの原因，要望の背景等を分析し，児童生徒の授業の理解度等を的確に把握する。
授業評価の結果の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・評価シートは児童生徒に返却する。児童生徒は，授業評価を通して様々な視点から学習を振り返り，自分自身の学習のよさや今後の努力事項などを理解できるようにする。 ・問題点のみを見つけようとせずに，授業の成果等にも目を向け，授業改善を一層進める。

Q5 授業評価の評価シートは、どのようなものが考えられますか。

A 研究協力校の評価シートを参考に作成したものを以下に提示します。

小学校 授業評価（高学年・児童用）

教科名（ ） 年 組 番 氏名（ ）

この授業評価シートは、授業をよりよいものにするために、児童のみなさんに意見を聞き、参考にするためのものです。授業をふりかえって、自分の思うとおりに答えてください。

（ A：そう思う B：ややそう思う C：あまりそう思わない D：そう思わない ）
として、あてはまる記号を で囲んでください。

	評 価 項 目	評価の段階
1	何を学習するかがはっきりわかりましたか。	A B C D
2	自分で考える場面がありましたか。	A B C D
3	今日の学習内容がわかりましたか。	A B C D
4	先生の説明はわかりやすかったですか。	A B C D
5	先生の板書はわかりやすかったですか。	A B C D
6	授業の進め方はよかったですか。	A B C D
7	先生はあなたの考えを認めてくれましたか。	A B C D
8	わからないところを質問しやすいふんいきでしたか。	A B C D
9	友達と協力して活動できましたか。	A B C D
10	友達の意見がよく聞けましたか。	A B C D

授業について、希望したいことを書いてください。

中学校 授業評価（生徒用）1年生・英語科の例

年 組 氏名

この単元の授業について

これは、教科担当者が授業をよりよいものにしていこうと、生徒の皆さんから意見を聞くためのものです。従って、皆さんの成績とは一切関係がありませんので、授業について率直な意見や感想あるいは要望などを記入してください。

記入のしかた

- | | | |
|---|---|------------|
| 1 | 各項目に対するあなたの判断を下記の数値で示してください。 | |
| | 4 そう思う | 3 だいたいそう思う |
| | 2 あまりそうは思わない | 1 まったく思わない |
| 2 | 自由記述欄には、判断した理由や要望などを書いてください。また、最後の欄にも、授業について気づいたことや要望、意見などを遠慮なく書いてください。 | |

教科【1年英語】単元名【		実施日	月	日（ ）
項目	数値	自由記述（判断の理由や要望など）		
1 学習に集中して取り組むことができた。				
2 友達の意見をよく聞いたり、自分の考えを述べたりすることができた。				
3 分かりにくいところなどを質問しやすい雰囲気だった。				
4 授業の進み具合は適切だった。				
5 学習内容に興味をもてたり、わかりやすくなるような工夫がなされていた。				
6 積極的にコミュニケーションを図ろうとした。				
7 特にねらいとしている表現を用いて英語で話したり書いたりすることができた。				
8 相手の言ったことや読み物の内容が理解できた。				
9 本時の新しい文法事項や語句の使い方がわかった。				
10 題材に関連した文化的なことがらについて理解できた。				
< 授業への要望や意見 >				

この時間の授業について

各設問の該当する箇所に 印をつけてください。

- 1 先生の授業の準備は、よくなされていたと思いますか。
() よくなされていた。
() だいたいなされていた。
() 準備不足であった。
- 2 授業内容は、理解できましたか。
() 十分理解できた。
() だいたい理解できた。
() あまり理解できなかった。
() ほとんど理解できなかった。
- 3 説明は、わかりやすかったですか。
() とてもわかりやすかった。
() わかりやすかった。
() わかりにくかった。
- 4 あなた自身は、授業に集中して取り組みましたか。
() 集中して取り組んだ。
() ある程度集中して取り組んだ。
() 集中して取り組んだとはいえない。
- 5 クラス全体の授業への取り組みはどうでしたか。
() 大変よく取り組んでいた。
() どちらかといえばよく取り組んでいた。
() あまりよく取り組んでいなかった。
- 6 授業には満足ですか。
() 満足のいく授業であった。
() 満足度はまずまずであった。
() あまり満足できる授業ではなかった。（どんな点か、下記に記入してください）

- 7 授業を受けて、もう一度内容を復習したり、関連する内容を調べてみたり、さらに先の内容を勉強したりしようと思いましたが。いくつ選んでも結構です。
() もう一度、教科書や問題集で復習しようと思う。
() 関連する内容を、事典や書物で調べようと思う。
() 次に行われる授業の内容を調べてみようと思う。
() 特に、何もしようと思わない。

- 8 先生への要望等を記入してください。

特殊教育諸学校 授業評価（高等部・生徒用）

授業じゅぎょうについてのアンケート

第 学年 名前（ ）

平成 年 月 日

この時間の授業じゅぎょうをふりかえり、それぞれの質問しつもんについて、あてはまる番号ばんごうに 印じるしをつけましょう。

このアンケートの結果けっかは、先生方せんせいの授業じゅぎょうづくりに生かいしていきます。

- 1 授業じゅぎょうはおもしろかったですか。
はい だいたい いいえ
- 2 学習がくしゅうしたことがわかりましたか。
はい だいたい いいえ
- 3 学習がくしゅうする量りょうはよかったですか。
はい 多かったおお 少なかったすく
- 4 授業じゅぎょうの進みすすぐあいあいはよかったですか。
はい はやい おそい
- 5 授業中じゅぎょうちゅうにわからないことを先生せんせいに聞くことができましたか。
はい 少しすこ いいえ
- 6 先生せんせいはあなたの意見いけんを聞いてくれましたか。
はい 少しすこ いいえ
- 7 授業じゅぎょうで、「先生せんせいに何かなにこうしてほしい」というきぼうかを書きましよう。

単元評価

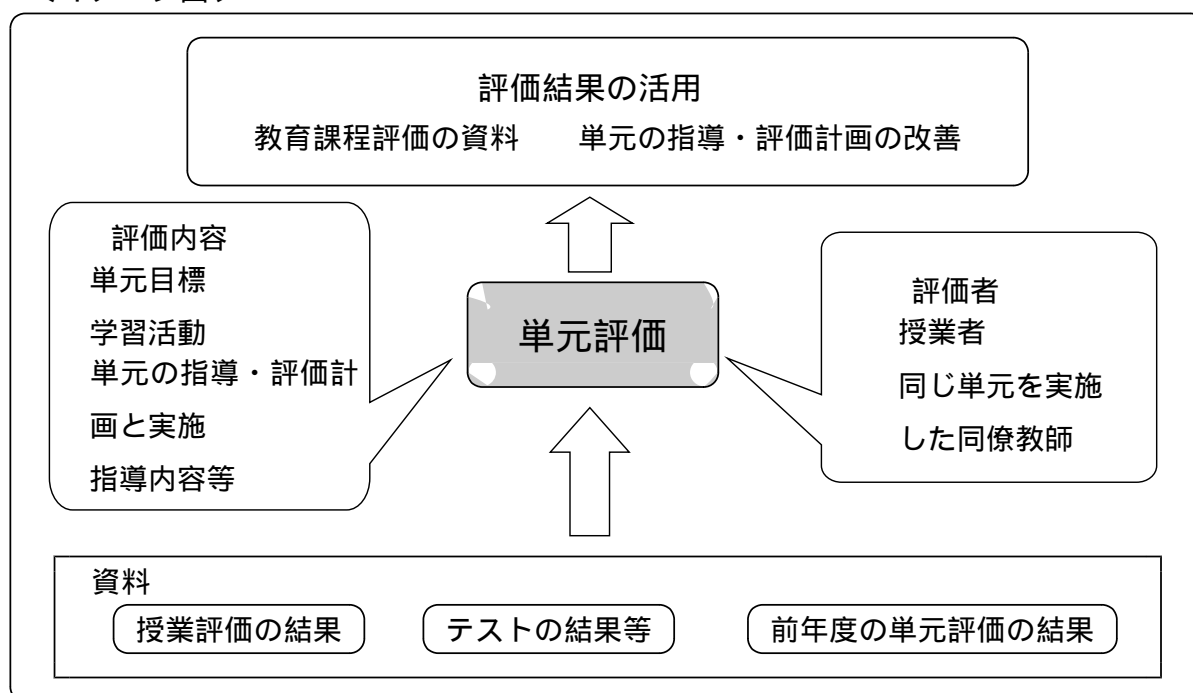
Q 6 単元評価とは、どのような評価なのでしょうか。

A 単元評価とは、単元目標の実現状況や児童生徒の活動状況等をとらえ、単元等に配当した時間、指導内容、指導形態、指導方法等を評価することです。単元等は授業者自身が計画し、実施しますので、その適切性を評価し、常に改善を図ることが必要になってきます。単元評価を積み重ねることによって、その結果が教育課程評価に生かされます。

下表に、単元評価の評価者、評価内容、評価方法について示します。

評価者	評価内容	評価方法等
授業者 同じ単元を指導した同僚教師	単元目標	観点別評価の集計結果等をもとに、単元目標の実現状況の分布をとらえる。
	学習活動	授業評価結果や児童生徒の学習に関する記録等をもとに、児童生徒の学習活動の状況の評価する。
	単元の指導・評価計画と実施	単元の指導・評価計画にそって単元を展開できたか評価する。
	指導内容、教材、配当時間、指導形態、指導法、学習環境、評価規準等	授業評価結果や上記の評価結果をもとに、指導内容等を評価し、改善策を単元の指導・評価計画の余白等に記入する。

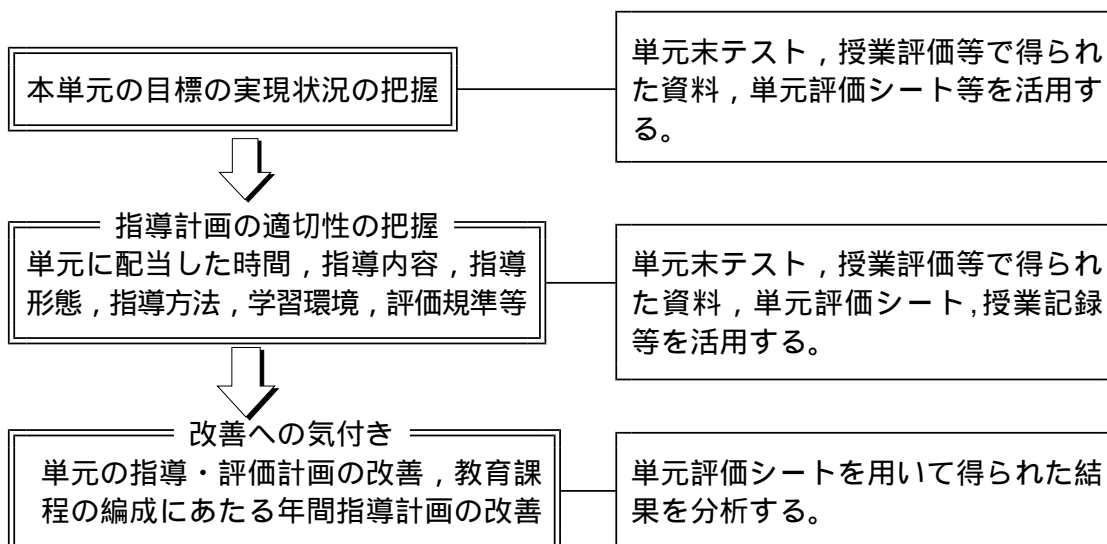
〔イメージ図〕



Q 7 単元評価を行う場合の手順と留意点を示してください。

A 【単元評価の手順】

評価の手順は、次のようになります。



【単元評価の留意点】

留意点としては、次のようなことが挙げられます。

授業者一人で行うのではなく、学年会や教科会等でそれぞれの評価を共有し、実現状況を客観的に把握するとよいでしょう。

小学校では、始めから全教科で行おうとすると、評価するだけで精一杯になってしまい、その結果を改善に生かす時間的な余裕がなくなってしまうことが考えられます。学校の教育目標を踏まえて、全教職員が取り組みやすい教科等から実施するとよいでしょう。

単元評価の結果を教育課程評価や次年度の単元評価に生かすことができるように、評価結果を蓄積しておくことが大切です。

Q 8 単元評価を実施する上で、配慮することはどんなことでしょうか。

A 単元評価を教育課程評価に生かしていくためには、教育課程評価の具体的な評価内容に照らして単元評価の具体的な評価内容を決めていくことが大切です。一例を挙げると次のようになります。

	教育課程評価	単元評価
評価内容	指導計画の時間数	配当時間数
具体的な評価内容	各教科等の学習時間数の中で、児童（生徒）は、無理なく十分に活動できたか。	本単元の指導時数の改善は必要であるか。

Q 9 単元評価の評価シートは、どのようなものが考えられますか。

A 研究協力校の評価シートを参考に作成したものを以下に提示します。

小学校 単元評価

記入日：平成 年 月 日

記入者：()

教科		単元名	
----	--	-----	--

評価（改善点無し： 改善点有り： ）

	評 価 項 目	評価	具体的な改善策
1	単元のねらいが達成できたか。		
2	時間配分は適切であったか。		
3	学習形態の工夫があったか。		
4	教材・教具・資料等は適切であったか。		
5	指導方法の工夫が見られたか。		
6	発問や説明の仕方は適切であったか。		
7	児童の考えや意見を授業の中で生かしていたか。		
8	授業の進み具合は適切であったか。		
9	児童の授業に臨む態度はよかったか。		
10	学校の教育目標を意識した授業をしていたか。		

その他、気づいた点

--

中学校 単元評価

教科・単元名		日時	月 日 ()
		評価者	

単元構成	指導内容	指導形態・方法等
第1時		
第2時		
第3時		
第4時		
第5時		
第6時		

* 参考資料：単元末テスト結果，生徒による授業評価結果，その他授業の記録等

評価項目	気づいた点や具体的な改善策等
1 本単元の目標や内容は改善の必要が 〔ある・ない〕	
2 本単元の評価規準は改善の必要が 〔ある・ない〕	
3 本単元の構成は改善の必要が 〔ある・ない〕	
4 本単元の指導時数は改善の必要が 〔ある・ない〕	
5 指導方法や指導形態等について，改善の必要が 〔ある・ない〕 TT コース別学習 グループ学習 教材・教具の適切な使用等 その他 ()	
6 単元末テスト問題は改善の必要が 〔ある・ない〕	
7 その他	

評価項目	評価内容
<p>1 生徒の学習状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・微分法の概念の理解 ・導関数の計算の習熟 ・導関数を用いて関数の変化を捉えること ・3次関数のグラフをかくこと 	
<p>2 授業についての技術的な側面等に関する状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明と演習のバランス（時間配分等） ・個別の指導や補充指導 ・その他 	
<p>3 微分法に対する教材観</p> <p>以前に指導した場合と比べて、教材観にどのような変化があったかを記す。初めての指導であればその感想を記す。</p>	
<p>4 教材研究について</p> <p>この単元を扱うにあたり、教師として、教科の指導内容の範囲を越えて、どのような研究や研修を実施したか、その内容を記す。</p>	
<p>5 その他</p> <p>自由に記述する。</p>	

特殊教育諸学校 単元評価

単元・題材評価シート

平成 年 月 日
記入者()

評価(: 課題特になし : 課題あり)

指導形態		単元・題材名	
学部等	部 年 組	実施期間	
項目	評価内容	評価	気づいた点及び改善策等
学習状況	1 個人の目標を実現できたか。		
	2 興味・関心をもって学習していたか。		
学習内容	1 障害の実態に適した内容であったか。		
	2 わかりやすい内容であったか。		
指導方法	1 個に応じた指導が行えたか。		
	2 教材・教具は適切であったか。		
	3 学習形態は適切であったか。		
	4 T Tは有効に機能していたか。		
指導計画	1 指導計画通りに実施できたか。		
	2 個別の目標は適切であったか。		
	3 指導時間数は適切であったか。		
	4 実施時期は適切であったか。		
	5 年間指導計画に基づいて実施されているか。		
	6 個別の指導計画との関連が図られているか。		
その他	1 教育資源を有効活用できたか。		
	2 次年度も同学年で実施すべき内容か。		
備考			

教育課程評価

Q10 教育課程評価とは、どのような評価なのでしょうか。

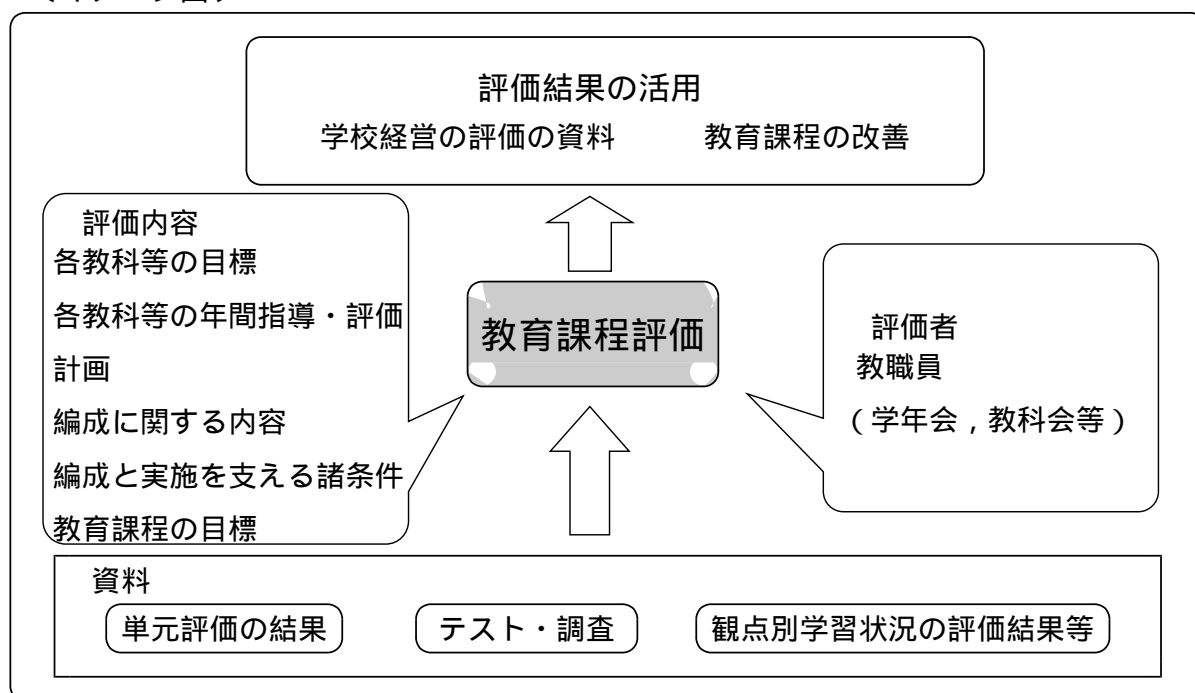
A 教育課程経営「編成 実施 評価 改善」の評価にあたる部分が、教育課程評価と言えます。

教育課程評価は、各教科等（各教科，道徳，特別活動，総合的な学習の時間等）の目標の実現状況や年間指導・評価計画等の実施状況，教育課程の目標の実現状況等を，さらに，教育課程の編成や諸条件について評価し，教育課程に関する改善策等を明確にするとともに，学校経営の評価のための資料を得ることを目的としています。

下表に，教育課程評価の評価者，評価内容，評価方法等について示します。

評価者	評価内容	評価方法等
教職員	各教科等の目標	・単元評価結果の蓄積，学力テスト（校内テスト，学力調査等）の結果，学期や年間の観点別学習状況の評価結果の分布状況等をもとに，各教科等の目標の実現状況进行评估する。
	各教科等の年間指導・評価計画	・単元評価結果等をもとに，年間指導・評価計画の実施状況进行评估し，年間指導・評価計画の改善策を年間指導・評価計画等に記載する。
	編成に関する内容	・指導内容の選択，指導内容の組織，授業時数等について評価し，改善策を記録する。
	編成と実施を支える諸条件	・学級経営，学年経営，生徒指導，進路指導，教育資源等について評価し，改善策を記録する。
	教育課程の目標	・教職員個々の評価結果，学年会，教科会，分掌の部会等の評価結果をもとに，教育課程の目標の実現状況进行评估する。

〔イメージ図〕



Q11 どのような手順で，どのようなことに留意して教育課程評価を行って
いけばよいでしょうか。

A 教育課程評価の基本的な手順と留意点については，次のようなことがあげられます。

手 順	留 意 点
教育課程評価計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校長や教頭の指導助言のもとに，教務主任を中心とする教育課程評価を推進する部会で，教育課程評価計画を立案する。 ・ 評価計画には，いつ，だれが（どの組織が），どのようなことを行うのかを明確にしておく。
教育課程評価の共通理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課程評価計画をもとに，全教職員で，また部会等で，時間をかけて共通理解を図る。 ・ 評価者や評価時期の確認だけでなく，具体的な評価方法について演習等を通して共通理解を図る。
教育課程評価（各学期）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元評価，学期末の観点別学習状況の評価，児童生徒の意識・実態調査結果，前年度の教育課程評価結果等をもとに，各教科等の目標の実現状況をとらえる。 ・ 学期末の観点別学習状況の評価は，単元ごとの目標に準拠した評価結果をもとに行う。従って，よりよい教育課程評価を行うためにも，単元ごとの目標に準拠した評価を適切に行うことが大切となる。 ・ 諸条件をなす学級経営，学年経営，生徒指導，進路指導，教育資源（人的資源，物的資源，財政的資源，潜在的資源）等についても評価する。 ・ このような評価を着実に行うためには，評価シートを活用することも有効である。その際，「継続して取り組む」「修正を加えて続ける」「取組をやめる」「新たに取り組む」という四つの視点から評価することにより，具体的な改善策が一層明確になる。
年間指導・評価計画等の修正（各学期）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学期ごとの教育課程評価等をもとに，その学期の年間指導・評価計画の修正や次の学期の年間指導・評価計画の修正を行う。 ・ 各単元等の終了後に，その都度，可能な範囲で年間指導・評価計画を修正しておき，長期休業中には，修正した年間指導・評価計画を再検討したり，次の学期や次年度の年間指導・評価計画について集中して修正したりすると効率的である。 ・ 学級経営案や学年経営案等の修正も行う。

手 順	留 意 点
教育課程評価 (年間)	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の教育課程評価では、まず、単元評価結果、学力テストの結果、学期や年間の観点別学習状況の評価結果、児童生徒の意識・実態調査結果、前年度の教育課程評価結果等をもとに、各教科等の目標の実現状況を評価したり、年間指導・評価計画の実施状況を評価したりする。 ・教科においては、学力の定着状況の把握も重要となる。学力の定着状況を把握する方法としては、先に示した観点別学習状況の評価結果の集計や、校内独自の学力テストや県・市町村単位のテストの実施、全国的規模のテストへの参加等があげられる。この学力の定着状況を把握する際には、単にテスト結果の平均値だけを見るのではなく、得点の分布状況や学習習慣、生活習慣との関連等、多面的、多角的に分析することが大切となる。特に、児童生徒個別の状況をしっかり把握することは、もちろんのことである。 ・学年会、教科会、分掌の部会等における話し合いを大切にし、その年度の教育課程の編成に関する評価と諸条件に関する評価を行い、成果と課題を明確にし、次年度の改善策を見いだす。 ・教育課程の編成に関しては、特に、各教科等の指導内容、指導時期、授業時数、指導形態、指導方法等について検討することが大切となる。また、調和のとれた教育課程の編成、各教科等の指導内容の系統性や各教科等間の指導内容相互の関連性についても話し合い、この視点での改善策も見いだす。 ・教育課程の目標についても評価する。教育課程の目標とは、今年度の教育課程の編成や実施にあたり 重点的な目標として掲げたもの、例えば、「基礎学力の定着」、「調和のとれた教育課程の編成」等があげられる。 ・教育課程評価を推進する部会では、各部会等で行った教育課程評価結果をまとめるとともに、学校全体としての次年度の教育課程の編成に関する改善点を明確にする。 ・年間の教育課程評価でも、「継続して取り組む」「修正を加えて続ける」「取組をやめる」「新たにに取り組む」という四つの視点から、評価することが大切である。
教育課程評価結果と改善策の公表及び蓄積	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員はもとより、保護者、地域住民、教育委員会等、公表の対象に応じて、評価結果と具体的な改善策について公表する。 ・評価結果と改善策を蓄積し、次年度に実施する教育課程評価の資料として活用できるようにしておく。

Q12 単元評価結果をどのように教育課程評価に生かせばよいでしょうか。

A 単元評価結果は、各教科等の目標の実現状況を把握したり、年間指導・評価計画等を修正したりする際に生かすようにします。

まず、各教科等の単元評価結果をコンピュータなどに蓄積しておき、学期や年間における各教科等の目標の実現状況を把握する際の資料の一つとして活用します。各教科等の目標の実現状況を把握するための中心となる資料は、学力テストの結果や観点別学習状況の評価結果です。この単元評価を資料に加えることによって、より多面的、多角的に評価できるようになります。

次に、単元評価結果を年間指導・評価計画を修正する際に活用します。単元評価結果に示されている指導内容、授業時数等に関する改善策等が、各教科等の年間指導計画における単元配列、指導内容、指導時間、指導形態、指導方法等を修正する際の根拠となります。

Q13 教育課程評価を推進する部会をどのように組織し、運営していけばよいでしょうか。

A 教育課程評価を効果的、効率的に行っていくためには、教育課程評価を推進していく部会が必要となります。まず、このような部会を新たに立ち上げる必要があるかどうか検討することが求められます。既に組織されている部会、例えば教育課程部会や教育課程編成委員会などで、教育課程評価を推進していくことが可能であれば、新たに組織を立ち上げる必要はないでしょう。また、新たに組織を立ち上げる必要がある場合でも、これまでの組織で必要のない組織があるかを併せて検討することが大切です。

この部会のリーダーとしては、教務主任が考えられます。そして、教務主任と学年主任の代表、教科主任の代表等をこの部会の構成員にしたり、教育課程経営をよく理解している教員、調査や分析に優れている教員等を構成員にしたりするなど、各学校の実態に応じて組織することが大切になります。

この部会は、教育課程評価だけでなく、校長や教頭の指導助言を受けながら、教育課程の編成や実施、改善、即ち、教育課程経営全般において、リーダーシップを発揮することが大切となってきます。そこで、この部会のメンバーには、教育課程評価はもちろんのこと、教育課程の編成に関する能力、カリキュラムマネジメントに関する能力を一層身に付けるための研修が必要となります。

Q14 教育課程評価結果をもとに改善策まで明確にすることが難しいという課題を、どのように解決していったらよいでしょうか。

A 教育課程評価では、教育課程の編成はもとより、諸条件も評価の対象となるため、評価項目が多くなり、評価した結果の集計に時間を要し、集計した結果の提示のみになりやすいという課題が生じることがあります。

また、教育課程評価を厳密に行うとする余り、評価項目を細分化し、それらに対する評価を4段階の評価尺度を用いて行い、その結果を集計して平均値を出したり、学期ごとの平均値を比較したりするだけにとどまってしまうこともあります。学期ごとの平均値を比較すること自体にも意義はあります。しかし、より重要なことは、教育課程評価結果から効果的に教育課程経営の改善策を見だし、実際に改善していくことです。

先の課題を解決し、改善につながる教育課程評価を行うためには、評価結果をコンピュータ等を活用して効率的に集計することが考えられます。また、評価シートに示す評価項目を大項目だけに絞ったり、重点化したりするとともに、それぞれの評価項目に対して、成果、課題、改善策を具体的に記述する欄を設けるといった形式の工夫改善も大切になります。

Q15 全教職員が意欲的に教育課程評価に取り組めるようにするには、どのような手立てが必要でしょうか。

A 基本的には、次のような手立てがあげられます。

手 立 て	具 体 策
共通理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程評価の目的，重要性，具体的な取組方法について，年度当初に，また実際に評価を行う際に，十分時間をとって共通理解を図る。
無理のないところから始め，実施しての効力感が得られるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初から完璧な評価を求めず，十分ではなくても，まずできるところから実施するという姿勢を大切にす。 ・教職員一人一人の「このように評価を工夫するとよい。」「このような評価方法でやってみたい。」というような声や考えを大切にすして，評価方法を少しずつ改善していく。 ・教育課程評価を行って，明確にされた改善策について，長期的なものか，緊急を要するものか，優先順位をつけ，速やかに改善できるものから確実に改善し，「年間指導計画を改善することができた。」「新たな教育活動を自分たちの力で立ち上げることができた。」「教育活動がよりよいものとなった。」「協力

	<p>し合って教育課程経営を行えるようになった。」「児童生徒の成長につながった。」「お互いの指導力の向上につながった。」というな効力感が全教職員に得られるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題点や課題を解決するだけでなく、積極的に新たな取組を実施することによって効力感が高まる。 ・効力感を一層高めるためにも、保護者や地域住民，教育委員会等に教育課程経営の改善状況を公表し，感想等を得ることが大切である。
組織を生かして取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・組織として取り組むことによって，教育課程評価に対して消極的，苦手意識のある教職員も巻き込むことが可能になる。また，効果的に全教職員で教育課程評価を行えるようになる。具体的には，学年会，教科会，生徒指導部会，進路指導部会等ごとに，部会リーダーを中心に取り組むことがあげられる。 ・各部会の取りまとめを行う部会も大切となる。教育課程評価を推進する部会がこれを担当することになる。この部会と各部会のリーダーとの連携を大切にする。
創意工夫を生かした教育課程の編成，実施を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程評価を行ってみたいという意欲を高めるには，自分たちの手で創意工夫して教育課程を編成，実施することが大切となる。創意工夫して編成，実施したものであれば，「評価してみたい，評価して結果を知りたい，評価しなければならない。」という思いが高まるからである。

Q16 教育課程評価の結果を次年度の教育課程の編成に生かすには，どのような点に留意すればよいでしょうか。

A 教育課程の編成には，教育課程の目標の設定，教育課程の編成の基本方針の明確化，各教科，道徳，特別活動，総合的な学習の時間等における指導内容の選択，指導内容の組織，指導日時数の配当，全体計画や年間指導計画の作成等があります。

教育課程評価の結果を次年度の教育課程の編成に生かすための留意点として，次のようなことがあげられます。

留意点	具体策
年間の教育課程評価の実施時期を早める。	・年間の教育課程評価や次年度の教育課程の編成には時間がかかる。よって，年間の教育課程評価の実施時期を早め，これらの取組に関する時間を十分確保する。
教育課程評価結果をもとに，教育課程の編成等に関する改善策を明確にする。	・教育課程評価結果をもとに，各部会等や教職員全体での話し合いを通して，教育課程の編成に関する改善策や諸条件に関する改善策を明確にする。

学校経営の評価

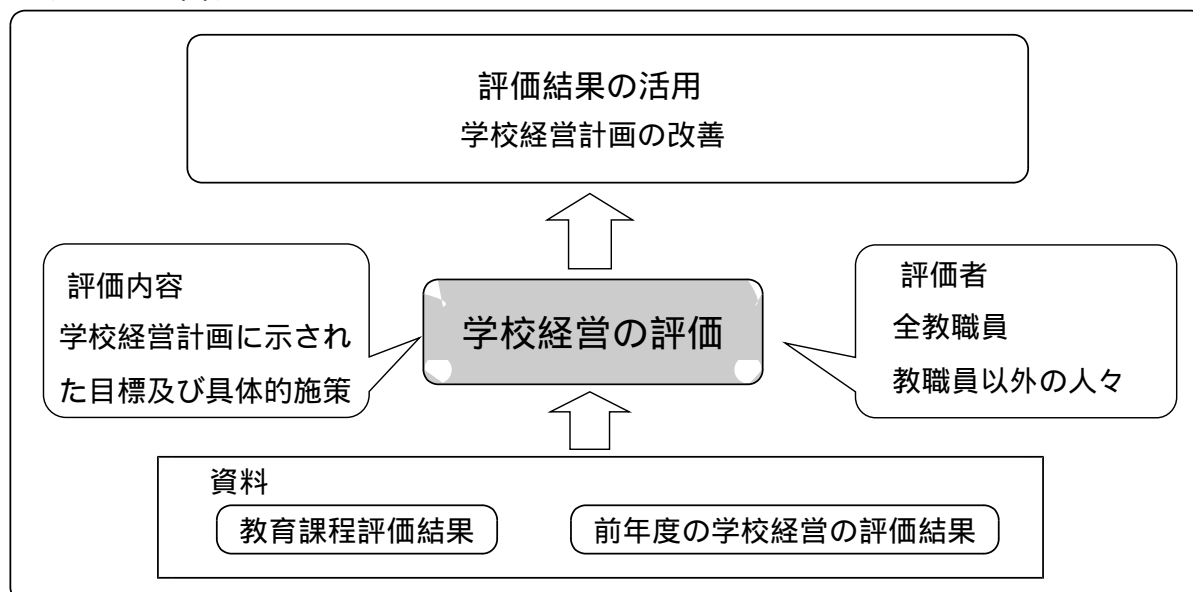
Q17 学校経営の評価とは、どのような評価なのでしょうか。

A 学校経営の評価は、その年度の学校経営の重点目標の実現状況や具体的施策の実施状況を評価し、成果と課題を明確にするとともに、改善策を見いだすために行います。

下表に、評価者、評価内容、評価方法等について示します。

評価者	評価内容	評価方法等
児童生徒	重点目標 具体的施策	・重点目標や具体的施策に関して、児童生徒が評価可能な項目について評価する。
保護者 地域住民	重点目標 具体的施策	・重点目標や具体的施策に関して、保護者、地域住民が評価可能な項目について評価する。
学校評議員 学校評価委員	重点目標 具体的施策	・事前に評価を行うために必要な資料を提示しておく。 ・学校評議員、学校評価委員からの意見聴取等を行う。
教職員	重点目標 具体的施策	・教育課程評価結果、前年度の学校経営の評価結果、児童生徒、保護者、地域住民、学校評議員、学校評価委員等の評価結果をもとに評価する。 ・学年会や教科会等の組織を生かし、話し合いをもとに評価する。 ・評価結果をもとに学校経営の成果と課題、次年度の改善策等を明確にし、教職員の共通理解を図る。 ・学校経営の評価の結果、成果と課題、改善策を公表する。

〔イメージ図〕



Q18 なぜ、教育課程評価の結果を学校経営の評価に生かすことが大切なのでしょうか。

A 学校評価の主たる領域であり、かつ授業評価、単元評価の評価結果が蓄積された教育課程評価の結果を学校経営の評価に生かすことによって、学校経営の評価項目である年度の重点目標や具体的な施策について、自信をもって、より客観的に評価できるようになります。また、改善策についても焦点化が図られ、より具体的なものを見いだすことができるようになります。

Q19 学校経営の評価の留意点を示してください。

A 留意点として、次の5点が考えられます。

学校経営の評価は、学校経営の重点目標の実現状況や具体的施策の実施状況について評価しますが、評価シートに自由記述の欄を設けることも有効です。こうすることで、あらかじめ設定した評価項目の内容では表しきれない評価者の学校経営に対する考えや思いなどを反映させることができます。

評価結果の検討に際しては、ただ単に数値等を平均化して終わりとするのではなく、どのような点がどう評価されているのかをとらえることが大切です。同じ項目で、教職員の自己評価と児童生徒等の評価に差が生じる場合もあるので、2つの評価結果の関連をとらえて分析をすることも大切です。

教職員による評価でも、見解がほぼ一致する項目もあれば、見解が大きく分かれる項目もあります。見解が大きく分かれる項目については、学校経営の課題が潜んでいることも多いので、特に重点をおいて検討をすることが有効です。

校長は、分析した結果内容について、十分把握し、教育目標を達成するための条件整備を進めます。その場合、すぐできること、中長期的に取り組まなければならないことを明確にすることが大切です。

教職員以外の評価者に対しては、評価に必要な情報を提供することが大切です。教職員以外では、学校から提供された情報が評価の根拠になる場合が多いので、普段から必要な情報を吟味するとともに、定期的に情報を提供することにも配慮が必要です。

Q20 学校経営の評価の結果をどのように活用したらよいでしょうか。

A 学校経営の評価の結果については、分掌における部会や職員会議等で検討を重ね、教職員全体で共通理解を図ります。このことによって、改善策も出てきますし、教職員の協働意識も一層高まります。

改善策は、必要に応じて外部へも発信することが学校としての説明責任を果たすことになります。特に、評価にかかわった関係者には、それぞれにどのような改善策を実施するのか適宜示していかなければなりません。

また、学校経営において、予算の裏づけを必要とするものも出てきますが、その際の根拠として、この学校経営の評価結果は、客観的な説得力のある資料となります。

Q21 学校経営の評価を実施してよかったと、教職員が感じられる評価にしていきたいと考えています。そのためのポイントを示してください。

A 本来、評価は、教職員を元気づけるものであるべきです。学校経営の評価も、教職員を元気づけるもの、実施してよかったと教職員が感じられるようになることが望まれます。

学校経営の評価を実施してよかったと感じられるようにするためには、次のようなことがポイントにあげられます。

まず成果等について共有し、努力したところ、重点的に取り組んだことを積極的に評価する。

一人一人が提案した改善策等を全体の評価結果に反映させる。

学校として、各部会として、そして、各個人として、課題の解決のための方策、今後新たに取り組むこと等を明確にする。